

●京都府立府民ホール

<p>前回検証結果 (平成26年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年の東京オリンピックを見据えた文化発信事業の中で、当施設をどのように活用していくかという中長期的な戦略が必要。 ・ 引き続き、利用者数の拡大に向けた営業活動の展開や自主事業の実施等、利用促進の取組を行うこと。 ・ 府域の文化芸術の総合拠点(音楽、舞踊等)としての役割を担い、設置目的に沿った事業を更に積極的に展開し、施設の活性化を図る。設置後26年が経過し設備等が老朽化しているが、計画的に整備を行い、府民満足の向上を目指すこと。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「琳派 400 年記念祭」や「京都文化力プロジェクト」に関連した事業を実施し、文化芸術の発信拠点として当施設を活用。 ・ 府内各地域にプロの演劇人を派遣しアドバイス等を行う事業を展開。 ・ 来館者及び施設利用者に高い満足をしていただくような質の高い事業の実施やサービスの提供、施設の特長・良さのPR、自主事業の数を増やす等の利用促進対策を実施。 ・ 老朽設備を更新。
<p>取組の結果</p>	<p>◇直近3箇年の実績として、平成28年度と比較し、平成30年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数が約3%増加 ・ 利用率(ホール)は約20%増加
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設・設備の老朽化が進行。 ◆利用者の年齢層が高い。 60歳代が35%、50歳代・70歳代が各20%台と多い。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □本施設と文化芸術会館の両輪での運営を考慮の上、文化芸術会館の機能継承に当たり、その関係性を基軸においた本施設の位置付け、方向性、経営方針の再検討が必要。 □高いクオリティのホールとして利用者に評価されているため、先手先手で設備改装等の計画立案を検討すべき。 □市内中心部の文化施設としての機能と活用内容を一層充実させ、利用者を拡大すること等により、ホールの利用率に見合った収益を目指すべき。 □有名ホールを見習って、お洒落でセンスの良い劇場として、施設の魅力を高めるため、ホワイエの利用方法の見直し等ソフト面のサービスの向上が必要。

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 継 続 </div> <p>◎文化芸術会館との関係性を基軸においた本施設のあり方について検討を行うこと。</p> <p>◎施設の機能と活用方法の改善を図り、高いクオリティのホールとしての施設の魅力の向上を図ること。</p>
	<p><今後の対応></p> <p>○文化芸術会館の機能継承も踏まえ、施設の特徴や位置付けを明確化し、それに合わせた利用者層の拡大及び収益の確保を図る。</p> <p>○高いクオリティのホールとして引き続き利用者に評価されるよう、利用者ニーズを踏まえ、施設の利用方法などソフト面での魅力やサービスの向上など、施設の活性化を図る。</p>